令和4年度の教育活動等に対する自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年2月13日実施

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園 園長 山本 環 ・ 安武 裕子

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園 学校関係者評価委員会長 大石 香代

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園 学校関係者評価委員 芦川 希美・ 髙島 紀子・ 竹内 俊二

教育理念	真に自由に個性を伸ばしながら正しい人間形成を目指すには、優れた教育者との出会いと適切な環境が必要である。
	幼稚園は、子ども達が初めて社会生活を体験する場であると同時に、生涯を通じた財産である様々な能力の礎を築く大切な時期である。
	しらゆり幼稚園は健康と情操教育を重視した教育に努め、仲間と協力しながら自然体験や社会経験を重ね、五感を使って感じ取り、考え、主体的に行動することを通し て、個性と能力を伸ばす教育をおこなう。
教育方針	孝友三心 一、親を思う心 一、友を愛する心 一、自分をみつめる心
教育目標	一、体の丈夫な子 一、心の豊かな子 一、よく考える子
	自然に恵まれた教育環境のもと、『孝友三心』を建学の精神とするとともに、『健康は一生の宝』という言葉を念頭に置き、体の丈夫な子、心の豊かな子、よく考える子を育てることを園の目標として教育に努める。
	『仲間や自分を大切に思い、互いを認め合う環境を構成する』
本年度の 重点目標	◎相手を思い、状況に応じた挨拶や態度を考えられる子を育てる
	◎ねらい・内容・発達を捉えた保育を実施・研究し、気付きや育ちを記録して情報発信する
	◎「なかよしTime」を充実させ、憧れの気持ちや思いやりの心を育てる

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園

	十分に理解(取り組み)できた・目標を達成している	9•10
評価基準	ほぼ理解(取り組み)できている・積極的に進められている	6~8
	理解(取り組み)できてはいるが、不十分な点(課題)がある	3~5
	理解できていない・取り組めていない・未実施	1.2

- * 左表の評価基準を参考に10段階評価する
- *項目に対する取り組み内容を記入する
- *取り組めなかった項目については、今後の 改善計画を記入する

評価項目	評価内容	評価点	幼稚園としての取り組み・改善策
教育理念 指導計画	園の教育方針を理解し、園児のために意欲的に教育・保育活動に取り組めた	7.6	園の教育方針と園児の実態が即しているか常に見直しを行いなが ら、園児が意欲的に活動できる保育を行っている。
	保育の目標を達成するために【ねらい】があり、【ねらい】をより具体的にしたものが指導計画であり、保育の内容であることを理解している	8.1	【ねらい】がハッキリと示されているので意識して保育を実施することができる。 個々の発達のバラつきにより個別指導が必要な活動もあるの
	園児の興味や関心、園児の実態、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している	7.7	で、【ねらい】についても見直しを行っていく必要がある。 園児の姿を日々記録し、興味関心が持てる保育を工夫できている。
保育について	楽しく保育に取り組むことができている	8.6	園児の目線に立ち、明るく積極的に保育に取り組み、園児と一緒に 保育を楽しむことができている。
	園児が主体的に関わりたくなるように、活動の展開に応じて環境の再構成をしている 活動に必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意している	7.4	ひとり一人の園児が主体的に活動できるように保育内容を組み立て ているが、時間に追われると保育者主導になりがちであった。
	自分の保育と計画の評価・反省をおこない、次の保育と計画に生かせるようにしている	7.4	昨年度より特に意識して取り組んでいる毎日の記録と反省を次の保育に生かし、活動を改善することができている。
	行事の種類や実施回数は適切である	7.4	行事のねらいを共通理解し、園児自らが「やりたい」と取り組み、成長 を促すことができた。行事ごとに反省と改善をしっかり行い、よりよい行
行事について	行事のねらいを理解し、計画や実施に十分生かしている	7.6	事になるようにしている。 どの行事も園児の成長にとって必要であると感じるが、行事が多すぎ
	行事の計画・実施・評価・改善の体制をとっている	7.7	て季節の遊び等を取り入れる時間が少ないので、行事を見直して厳 選することも必要であると感じる。
教職員同士の協力・連携	職員相互がそれぞれ全体的に立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく幼稚園運営に かかわっている	7.3	係分担が明確になっているので、ミスなく幼稚園運営ができている。
	教育・保育・運営の課題について園全体や学年で話し合いを行っている 打ち合わせ回数、時間、内容は適切である	6.6	相談や意見交換を行いながら協働する体制ができている。 打ち合わせや情報交換の時間が取れている学年と取れなかった学 年があった。シフトの組み方を検討し、クラス運営や保育内容を丁寧
	職務内容が明確で、協働できる体制になっている 職員の配置、係や仕事の分担・割り当ては適切である	7.1	に打ち合わせできる仕組みを検討する。
健康と安全への配慮	複数名による登園確認を行い、欠席・遅刻連絡のない場合は保護者に確認をしている 園外・戸外活動の前後には複数名で園児の人数チェックを行っている	9	複数の職員による人数チェックやiPadを使用した登降園システムの体制が整い、ミスがほぼなくなった。
	園児の体調を常に確認し、怪我や事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成 や言葉がけをおこなっている	8.3	園児の体調や怪我について独自で判断せず、複数の職員で状況を 共有して対応することができている。
	施設内外・設備の安全点検を定期的に行い、清掃・整理整頓など環境整備に努めている	8.6	毎月の安全点検を実施することで、早期に不具合個所を発見することができている。

評価項目	評価内容	評価点	幼稚園としての取り組み・改善策	
保護者との連携	園児や保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くように努めている 保護者の願いや意見を取り入れている	8.1	怪我やトラブルだけでなく、些細なことも伝え、保護者との信頼関係を築くことができた。	
	保育中の怪我や体調、人間関係など、些細なことも保護者に連絡している	8.3	保護者の保育体験を実施することにより園の様子を知ってもらえ信頼 につながるので、さらに多くの保護者が保育体験できるように検討し	
	保護者保育体験、バス添乗、行事お手伝いなどの人材活用の内容・回数は適切である	8.1	たい。働く保護者が増えているので、行事の保護者のお手伝い回数 などは適切だと感じる。	
情報の提供	保育参観・個人面談・各種おたよりを通して、幼稚園の様子や健康・安全に必要な生活習慣などについて積極的に発信している	8	保育の様子をおたよりやFacebook、Instagramで発信することで保護者に園での様子が伝わっていると感じる。保護者のFacebookの利用	
	ホームページ・フェイスブック・インスタグラムなどを通して、幼稚園の情報を一般に広く発信・公開できている	7.1	者が減っているので、『おうちえんのドキュメンテーション』など発信方法を検討していく。	
	掲示板、掲示場所などを適切かつ効果的に活用できている	7	Instagramでの発信情報やホームページの内容を検討していく。 園児向けの掲示板がとても好評なので、これからも工夫していく。	
守秘義務の遵守	職務上に知り得たプライバシーに関する情報等の秘密を守っている 園の重要書類や個人情報を記載した書類を園外に持ち出していない	9.4	クレームに限らず些細な出来事も報告・連絡・相談し、指示をあおぎ ながら解決するシステムができている。個人情報の取り扱いには十分	
報告・連絡・相談	園児・保護者のこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告・連絡・相談できている	8.9	注意し、重要な書類はすぐにファイリングしている。常に机回りを整理 整頓し、書類の紛失などがないように注意している。	
	クレームがあった場合は、まず謙虚にその話しを聞き、園長に報告・連絡・相談をしている	9.2	クレームは良い方向へ向かうチャンスと捉え、園の改善につながるよう にしている。	
特別支援教育	特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援を行うことができた	7.4	個別支援が必要な園児の情報を共有し、園全体でサポートすること ができている。該当児の保護者や外部団体とも連携し、個々の発達	
子育て支援	園庭開放事業や子育て支援事業に積極的にかかわることができた	6.5	かできている。該当児の保護有や外部団体とも連携し、個々の発達 に即した支援を行うよう努めている。 子育て支援や入園説明会などの活動に携わる職員が限られているの	
入園募集活動	入園説明会、その他の活動を通じて積極的に入園募集活動を行うことができた	7.1	で、園全体で活動に参加し、園児募集につながるように検討する。	
地域とのかかわ	地域の人、地域の小学校や保育園幼稚園との交流を積極的に図るように努めた	6.4	毎月『ご近所だより』を発行するなど、近隣住民との交流に努めている。 近隣の公園などに出かける回数を増やし、園児が幼稚園近隣の	
IJ	地域の公園・自然や道路の安全状況などについて理解するよう努めた	7.3	自然に触れる機会を増やしていきたい。 コロナウイルス感染防止のため活動が制限されてきたが、徐々に外部	
小学校との連携	幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿を意識した保育をすることができた 年長は小学校と連携を図ることができた	7.1	団体と交流できるように計画していく。 10の姿を意識できるよう保育室に掲示している。	
資質の向上	園内研修や外部の研修会には自己課題をもって進んで参加している	7.8	研修内容を事前に学習してから研修にのぞみ、知識を深めることが できた。 研修で学んだことを他職員と共有し、保育の質を高めるように	
	研修や研究を通し、自己研鑽に努め、保育内容の向上に努めている	7.4	努めている。研修を受けることが自分の保育を見直す良い機会に なっている。	
人権擁護	園児の人権擁護を理解し、園児を尊重する保育に努めている	8.3	全職員が園児を大切に思い丁寧に接しているので、体罰や虐待など の行為は見られなかった。 園児との約束を守れなかったりキツイ言動	
	間違った言動をしてしまった時は、誤りを認め適切な行動をとっている	8.2	になってしまった時は謝罪している。 同僚に対して意見することができず上司に伝えるだけになってしまっ	
	同僚の行動が変だな、おかしいなと感じた時は見て見ぬふりをせず、教職員同士で声を掛け合ったり注意し合ったりすることができている	7.1	ているので、教職員同士で意見できる関係が築けるようにしていきたい。	

評価項目	評価内容	評価点	幼稚園としての取り組み・改善策
本年度の重点目標	常に下記の目標を意識し、達成できるように保育を組み立て、実行することができたか		「こころのじかん」で様々な内容を話し合うことで、優しく、友を大切に
	仲間や自分を大切に思い、互いを認め合う環境を構成する	7.6	する心が育っていると感じる。自己肯定感が育つよう小さなことも認め 褒める保育を心がけている。 「なかよしTime」で上級への憧れを抱き良い刺激になっているので、 普段の保育でも他学年と交流する機会を増やしていきたい。 日々の保育を記録することで小さな変化や育ちに気づき、気になることは職員間で共有することはできているが、保護者への発信が少なかった。見える保育を意識し、情報発信に務めていく。
	相手を思い、状況に応じた挨拶や態度を考えられる子を育てる	7.9	
	ねらい・内容・発達を捉えた保育を実施・研究し、気付きや育ちを記録して 情報発信する	7.1	
	「なかよしTime」を充実させ、憧れの気持ちや思いやりの心を育てる	5.1	The state of the s
幼稚園としての 総合評価および 今後の課題	今年度は初めて各学年主任をフリー担任として配置し、経験年数の少ない教職員指導を行う体制にしたことにより、クラスによる指導のバラつきがなく、各担任が安心して保育にあたることができたと思われる。また、主任に相談しやすくなったため、学年間の情報共有が遅滞なく行うことができた。新型コロナウイルス感染防止のため行事を中止するのではなく、感染防止をしながら工夫して行事を実施することができた。どうしてもできない行事は代替え行事を行うことで、園児の学びが少なくならないように工夫することができた。昨年度に課題としてあげた「異年齢児との交流学習」と「歌の指導」も感染状況に応じながら臨機応変に実施し、2月の音楽会では3年ぶりに全学年合同で実施し、合唱も披露することができた。昨年度は学校関係者評価委員から「戸外遊びを充実させてほしい」との意見をいただいた。活動の流れと人員配置を見直し、自由あそびの時間帯に戸外あそびができる環境を整えることができた。コロナウイルス感染も少なくなった年度後半からは園庭開放を実施することができ、子育て支援につながっていると感じる。次年度は園庭開放の実施日をさらに増やし、園児募集にもつながるように計画していく。また、外部団体との交流活動も無理のない範囲で再開できるように計画する。他園のスクールバスへの置き去りや不適切な保育が報道されたことにより、自園の安全管理や保育の質を見直す良いチャンスになった。今後も園内研修や教職員ミーティングで自園の保育を振り返る機会を多くもち、園児が安心して安全に成長できる幼稚園づくりに努めていく。また、日々の保育の様子を発信することに務め、保護者の保育(士)体験や園庭開放(子育て支援活動)の機会も増やすことにより、安心して子どもを預けられる『見える幼稚園』を目指していく。		
学校関係者評価委員からの意見			